都市再生整備計画　事後評価シート
（添付書類）

（1）成果の評価

添付様式1－①　都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
添付様式1－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（完成状況）
添付様式2－①　都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
~~添付様式2－②　その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）により計測される効果発現の計測~~
~~添付様式2－参考記述　定量的に表現できない定性的な効果発現状況~~

（2）実施過程の評価

~~添付様式3－①　モニタリングの実施状況~~
添付様式3－②　官民連携による取組みの実施状況
添付様式3－③　持続的なまちづくり体制の構築状況

（3）効果発現要因の整理

添付様式4－①　効果発現要因の整理にかかる検討体制
添付様式4－②　数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
~~添付様式4－③　数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理~~

（4）今後のまちづくり方策の作成

添付様式5－①　今後のまちづくり方策にかかる検討体制
添付様式5－②　まちの課題の変化
添付様式5－③　今後のまちづくり方策
~~添付様式5－参考記述　今後のまちづくり方策に関するその他の意見~~
添付様式5－④　目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
~~添付様式6　当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方~~
~~添付様式6－参考記述　今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称（当該地区の次期計画も含む）~~

（5）事後評価原案の公表

添付様式7　　事後評価原案の公表

（6）評価委員会の審議

~~添付様式8　　評価委員会の審議~~

（7）有識者からの意見聴取

~~添付様式9　　有識者からの意見聴取~~

（1）成果の評価

添付様式１－①　都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		○			
B. 目標を定量化する指標		○			
C. 目標値	○		・道路や公園での「滞在人数」：30人/h ・道路・公園空間における「アクティビティの種類数」：7個 ・歩行者の通行量：100人/h	・道路や公園での「滞在人数」：40人/h ・道路・公園空間における「アクティビティの種類数」：10個 ・歩行者の通行量：130人/h	滞在者の快適性向上を図るため、市道豊砂701号線に人工芝を敷設するほか、周辺道路にベンチを設置する。あわせて、「新駅」「駅前広場」「周辺道路」「公園」「商業施設」の官民パブリック空間を一体的に活用したエリア全体の「ひと中心」の空間を創出するための社会実験を実施することから左記のとおりそれぞれの目標値を上方修正した。
D. その他（　　）		○			

添付様式１－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（事業の追加・削除を含む）

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	千葉市美浜区浜田2丁目地内外	50	道路整備	50	道路整備	なし		○	
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	幕張新駅（幕張豊砂駅）駅前広場	240	駅前広場整備	150.1	駅前広場整備	舗装種類の変更	影響なし	○	
高質空間形成施設									
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業（都市再生）									
住宅市街地総合整備事業									

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式１－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（事業の追加・削除を含む）

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画 事業費	当初計画 事業内容	最終変更計画 事業費	最終変更計画 事業内容	当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況 完成	事後評価時の完成状況 完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									
滞在環境整備事業	駅前広場、豊砂市道2号線、豊砂市道701号線	289.6	バスシェルター整備 社会実験	208.5	バスシェルター整備 社会実験 滞在環境整備	バスシェルターは設計の照査により事業費が下がった。あわせて、滞在環境整備を追加するとともに社会実験の内容を見直した。	滞留空間の創出に向けた人工芝やベンチを設置するため当初定めた指標の目標値を上方修正した。	○	

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式２－①　都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指　標		単位	データの計測手法と評価値の求め方（時期、場所、実施主体、対象、具体手法等）	（参考）※1 計画以前の値（ア）	基準年度	従前値（イ）	基準年度	目標値（ウ）	目標年度	数値（エ）				目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
																あり	なし
指標1	道路や公園での「滞在人数」	人/h	令和6年10月に社会実験の一環で実施されたイベントにあわせ、従前値の計測を行った豊砂公園そばで計測。市職員が滞在人数を現地でカウントする手法を用いた。	－	－	3	R2	40	R6	モニタリング				モニタリング			
										事後評価	確定	○	76	事後評価	○		
											見込み						
指標2	道路・公園空間における「アクティビティの種類数」	個	令和6年10月に社会実験の一環で実施されたイベントにあわせ、従前値の計測を行った豊砂公園そばで計測。市職員が来街者のアクティビティを現地でカウントする手法を用いた。	－	－	3	R2	10	R6	モニタリング				モニタリング			
										事後評価	確定	○	14	事後評価	○		
											見込み						
指標3	歩行者の通行量	人/h	【予定】 令和7年3月に社会実験の一環で実施されるイベントにあわせ、従前値の計測を行った豊砂公園そばで計測。市職員が歩行者の通行量を現地でカウントする手法を用いる。	－	－	45.7	R2	130	R6	モニタリング				モニタリング			
										事後評価	確定	○	132	事後評価	○		
											見込み						
指標4										モニタリング				モニタリング			
										事後評価	確定			事後評価			
											見込み						
指標5										モニタリング				モニタリング			
										事後評価	確定			事後評価			
											見込み						

指　標	目標達成度○△×の理由（達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む）	その他特記事項（指標計測上の問題点、課題等）
指標1	JR幕張豊砂駅の駅前広場、周辺道路の整備に加えて社会実験の一環で実施したイベントや市道上に人工芝やベンチを設置したことにより滞在人数が増加した。	
指標2	上述のとおり、ハード整備に併せて社会実験の一環で実施したイベントや市道上に人工芝やベンチを設置したことにより来街者のアクティビティの種類数が増加した。	
指標3	上述のとおり、ハード整備に併せて社会実験の一環で実施したイベントや市道上に人工芝やベンチを設置したことにより歩行者の通行量が増加する見込みである。	
指標4		
指標5		

※1　計画以前の値　とは、都市再生整備計画の作成より以前（概ね10年程度前）の値のことをいう。
※2　目標達成度の記入方法
○：評価値が目標値を上回った場合
△：評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
×：評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

（2）実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式３－①　モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった （理由　　）			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった （理由　　）			

添付様式３－②　官民連携による取組の実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
JR幕張豊砂駅周辺の企業等と「幕張豊砂ウォーカブル推進社会実験実行委員会」（以下、実行委員会）を組成し、「居心地よく歩きたくなるまちなか」の形成に向けた社会実験を実施。	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した	○	毎月１回実行委員会で会議を行っており、取り組みに対する意見交換を行っている。	令和５年７月から令和７年３月が当初設定された実行委員会の活動期間であるため、令和７年２月から社会実験の振り返りのために報告書の作成準備を開始している。
	予定したが実施できなかった （理由　　）			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった （理由　　）			

添付様式３－③　持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況		実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
			ⅰ．体制構築に向けた取組内容	ⅱ．まちづくり組織名：組織の概要	
同上	予定どおり実施した		実行委員会を組成し、官民で連携したパブリック空間の一体的に活用によって「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成に向けた取り組みを進める。	「幕張豊砂ウォーカブル推進社会実験実行委員会」：幕張豊砂地区の企業等で構成され、左記内容を連携して取り組む。	令和８年度以降は民間主体の組織とすべく、実行委員会内で顕在化される課題の議論を進めていく。
	予定はなかったが実施した	○			
	予定したが実施できなかった （理由　　）				
	予定どおり実施した				
	予定はなかったが実施した				
	予定したが実施できなかった （理由　　）				

（3）効果発現要因の整理

添付様式４－①　効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
幕張豊砂ウォーカブル推進社会実験実行委員会	イオンモール㈱、東日本旅客鉄道㈱千葉支社、㈱千葉ステーションビル、コストコホールセールジャパン㈱、㈱千葉ロッテマリーンズ、公益財団法人日本サッカー協会、日本ホテル㈱、㈱幕張メッセ、千葉市	毎月1回会議を開催	幕張新都心課

添付様式４－②　数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3		指標〇	
指　標　名		道路や公園での「滞在人数」		道路・公園空間における「アクティビティの種類数」		歩行者の通行量			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路	◎	JR幕張豊砂駅の駅前広場、周辺道路の整備に加えて社会実験の一環で実施したイベントや市道上に人工芝やベンチを設置したことにより滞在人数が増加した。	◎	左記のとおり、ハード整備に併せて社会実験の一環で実施したイベントや市道上に人工芝やベンチを設置したことにより来街者のアクティビティの種類数が増加した。	◎	左記のとおり、ハード整備に併せて社会実験の一環で実施したイベントや市道上に人工芝やベンチを設置したことにより歩行者の通行量が増加した。		
	地域生活基盤施設	◎		◎		◎			
	滞在環境整備事業（バスシェルター整備）	◎		◎		◎			
	滞在環境整備事業（社会実験）	◎		◎		◎			
	滞在環境整備事業（滞在環境整備）	◎		◎		◎			
提案事業									
関連事業									
今後の活用		道路・公園の公共空間がより滞留しやすい／したくなる空間となるよう社会実験を継続していく。		道路・公園の公共空間での過ごし方に選択肢が増えることで、その空間の使い方が多様になるよう社会実験を継続していく。		安心して快適に過ごせる公共空間となることで、歩行者の通行量が増加し、ひと中心の空間となるよう社会実験を継続していく。			

※指標改善への貢献度
◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
〇：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

（4）今後のまちづくり方策の作成

添付様式5－①　今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
幕張豊砂ウォーカブル推進社会実験実行委員会	イオンモール㈱、東日本旅客鉄道㈱千葉支社、㈱千葉ステーションビル、コストコホールセールジャパン㈱、㈱千葉ロッテマリーンズ、公益財団法人日本サッカー協会、日本ホテル㈱、㈱幕張メッセ、千葉市	毎月1回会議を開催	幕張新都心課

添付様式5－②　まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載したまちの課題	達成されたこと（課題の改善状況）	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
令和2年を境に人口減少期に転換していくことが見込まれており、これまでの「自動車中心」から「ひと中心・歩行者中心」のまちづくりへと転換する必要がある。	滞在環境整備やイベント開催を通じて、電車での来訪増や来訪者の滞在時間増が確認された。	自動車での来訪も引き続き多く見受けられることから、それぞれがどのように共存していくべきか検討する必要がある。	計画区域内のまちづくりを引き続き推進するため、その受け皿となっている実行委員会を民間主体の体制へと移行することが求められる。 また、更なる滞在快適性の向上を図るため、各公共空間の機能・役割を踏まえた必要な整備が必要となる。
これまで「つくる側目線」でのインフラ整備が進められてきたが、これからは多様な価値観・多様なライフスタイルに対応した「使う側目線」での道路・公園などの公共空間のあり方を考える必要が出てきており、整備段階から「使う側のプレイヤー」とともに検討を進める必要がある。	駅前広場やバスシェルター整備にあたっては、計画段階から交通事業者等の関係者との意見交換を密に行い、検討を進めた。	新駅開業後の取組みを通じて、駅前広場や道路の使い方や来訪者の行動等の知見が蓄積されつつあり、それらを踏まえた各公共空間の機能（役割）を関係者間で議論する必要がある。	
新駅から周辺の施設、隣接する幕張新都心中心地区や新習志野駅周辺地区との回遊性の向上を図る必要がある。	新駅や周辺施設近隣の公共空間を活用した催事の中で、幕張新都心中心地区と連動した取組みを実施し、幕張新都心内の回遊性向上を図った。	これまでは新駅周辺の関係者による取組みが多かったが、域外のプレーヤーの取り込みや連携を通じた発展を目指す必要がある。	

平成25年から実施している本市とイオンモール株式会社が実施している「豊砂公園パークマネジメント事業」と併せて、新駅から豊砂公園までを含めたエリアでの一体的な空間創出について検討する必要がある。	新駅から豊砂公園までをエリアとした催事を開催し、施設、道路や公園が連動する取組みを通じて、空間創出の工夫を凝らした。	滞在快適性等向上区域での取組みに注力してきたが、滞在快適性等向上区域外の都市再生整備計画区域内の空間活用についても検討を深める必要がある。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5－③　今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるために行う方策	「ひと中心・歩行者中心」のまちづくりへの転換の進捗把握	経年比較可能な指標等を設定し、実行委員会にて検証・評価を行う。	人流解析、来訪者アンケート
	他地区との連携深化	各地区で開催されるイベント等を契機に、イベント単体では得られない相乗効果が生まれる仕掛けを施す。	各地区で開催されるイベントを通じた回遊施策の実施
	各空間の一体的活用	駅前広場、道路や公園だけでなく、民間のオープンスペースや広場も含めた活用を促し、面的拡張を意識する。	テーマ性を持たせた空間連動型のイベント実施

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改　善　策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	公共空間の機能（役割）の議論	過去の取組みの評価結果を基に、活用のあり方（例　通行、滞在等）を見定めるとともに、機能に応じた整備の必要性を議論する。	公共空間活用のあり方検討
	域外プレーヤーとの連携	大学やイベント事業者等の連携可能性がある主体を特定し、双方にとって価値のある取組みを検討する。	大学と連携した美観推進（クリーン活動）

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5－③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。（チェック欄）

☑	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題（都市再生整備計画）を再確認した。
☑	事業の実施過程の評価（添付様式3）を再確認した。
☑	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用（添付様式4－②）を再確認した。
－	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針（添付様式4－③）を再確認した。
☑	残された課題や新たな課題（添付様式5－②）を再確認した。

添付様式5－参考記述　今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式５－④　目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式２－①、２－②に記載した全ての指標について記入して下さい。
・従前値、目標値、評価値、達成度、１年以内の達成見込みは添付様式２－①、２－②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、１年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指　標		単位	従前値	年度	目標値	年度	評価値			目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画 予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	道路や公園での「滞在人数」	人/h	3	R2	40	R6	確定	○	76	○	あり				
							見込み				なし				
指標2	道路・公園空間における「アクティビティの種類数」	個	3	R2	10	R6	確定	○	14	○	あり				
							見込み				なし				
指標3	歩行者の通行量	人/h	45.7	R2	130	R6	確定	○	132	○	あり				
							見込み				なし				
指標4				H		H	確定				あり				
							見込み				なし				
指標5				H		H	確定				あり				
							見込み				なし				
その他の数値指標1				H			確定								
							見込み								
その他の数値指標2				H			確定								
							見込み								
その他の数値指標3				H			確定								
							見込み								

（5）事後評価原案の公表

添付様式7　事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市ホームページに掲載	令和7年6月30日～ 令和7年7月14日（予定）	令和7年6月30日～ 令和7年7月14日（予定）	担当課への持参、郵送、FAX、電子メール	市街地整備課 （都市再生整備計画事業担当課）
広報掲載・回覧・個別配布	―	―	―		
説明会・ワークショップ	―	―	―		
その他	担当課の窓口で閲覧	令和7年6月30日～ 令和7年7月14日（予定）	令和7年6月30日～ 令和7年7月14日（予定）		

住民の意見	今後実施予定。